

単位数	教科担当者	使用教科書・補助教材・その他
2	高澤 昌利	国語表現 (大修館) ほか
必修 学校必修 必修選択 ○自由選択		

◆学習の目標

- ・深く考えること、相手や目的に応じて筋道を立てて適切に表現することを目標とする。
- ・大学入試問題（小論文形式）に対応する論理的な論述力を身に付ける。
- ・伝える力を養成していく。

◆主な学習内容・方法

- （1）主語述語の整合性、接続表現・指示表現の適切な使用、構成・展開などに留意して、簡潔で分かりやすい文章を書く訓練をする。
- （2）教科書・課題（新聞・新書etc.）を読みながら問題意識を養い、何を書くべきかという「材料」を集める。
- （3）多様な出題に対する適応力を養うために、種々様々な形式・テーマの課題に取り組む。
- （4）他の人の文章にふれることで、視野を広げ、思索を深める。

◆到達目標と評価の観点

- 〔標準〕 ・表現と理解に役立てるための文法、表記、語句、語彙、漢字を理解し、知識を身に付ける。
- ・構成を考えて、まとまった文章が論理的に展開できるようになること。
- 〔応用〕 ・書くことを通して、自らの思索を深め、進んで表現しようとする。

◆評価の方法

- ・各回の提出課題・質疑応答・出席状況など、総合的に判断する。

◆年間予定授業時間

予定時数	70 時間	1 学期（26 時間）	2 学期（28 時間）	3 学期（16 時間）
------	-------	-------------	-------------	-------------

◆学習のしかた（予習・復習・宿題・課題・その他）

常日頃から社会に目を向け、新聞・新書・選書ほかの文章に触れて自分の問題意識を養う。
時事問題ばかりでなく、一般的な哲学の問題等に自分の考えをもつようにつとめる。
授業で課題に取り組み、実際に小論文を書いてみる。
他の人が書いた文章と比較していく中で、自分の文章の特徴・癖を知り、欠点を改善する。

◆授業計画

学期	月	単元・教材等	時間	学習の内容	学習到達目標
1	4	要約・記述問題の練習	8	・小論文を書くに当たって、文章を的確に書く訓練を行う。	・課題文の段落ごとに内容をまとめながら、本文全体の要旨を理解することができる。
	5	小論文入門 「読む」から「書く」へ	6	・要約練習を行って、文章の構成をつかむ訓練を行う。	・本文の表現を利用するだけでなく、自分の言葉で要約ができる。
	6		8	・構成を考えながら、論理的な文章を書く訓練を行う。	・言葉を正確に用いて、客観的な文章が書ける。
	7		4	・同一テーマで書いた文章を互いに読み合い、題材や構成の工夫を学ぶ。	・主語述語の整合性、接続表現や指示表現の適切な使用などに留意して、簡潔で分かりやすい文章が書ける。
2	8	大学の過去問を使つての演習 入試問題演習	4	・様々な形式の出題に対応する読み取り（写真・絵・データ・グラフなどを課題とした小論文の対策）を行う。	・図から文章へ、データから文章への流れをたどり、読み取り解釈ができる。
	9		6	・頻出テーマに一通り取り組む。	・時間配分を意識して文章が書ける
	10		6	・各個人の実際に予想される問題について書いてみる。	・論述と添削を繰り返す中で、無駄のない表現、効果的な表現ができるようになる。
	11		6	・互いの論述を見合って、優れた点を吸収する。	
	12		6	・個別指導	
3	1	入試問題演習	16	個別指導	・制限時間内で、設問に正対している内容の文章を書くことができる。
	2				・自分の意見を具体例や根拠とともに述べることができる。
	3				